

工房図と職人たちの世界

壁画が語る古代エジプトの技術と暮らし

講師：畑守泰子（愛媛大学）

古代エジプトの私人墓（王以外の人々の墓）の壁画には、墓の主やその家族だけではなく、さまざまな場所で働く庶民の姿が数多く登場しています。中でも、家具や革製品、金属製品、装飾品などを作る職人を描いた「工房図」は、古王国時代から千年以上にわたって墓壁画に描かれ続けた人気のモチーフでした。墓壁画の図像は必ずしも現実をそのまま写したものと限りませんが、工房図の光景は、おおむね当時の技術や人々の暮らしを反映したものであったようです。今回は、こうした工房図を基に、古代エジプトのモノ作りの技術と職人たちの活動、そして庶民の暮らしの一端をご紹介します。

日時：2023年3月25日（土）10:00～4月2日（日）23:00

配信：YouTubeで「アジア古代産業考古学」と検索いただくか、

<https://youtube.com/live/kc900h329W4?feature=share>

と直接打ち込むかしてください。QRコードからも

検索できます。登録・申込は不要で、どなたでも

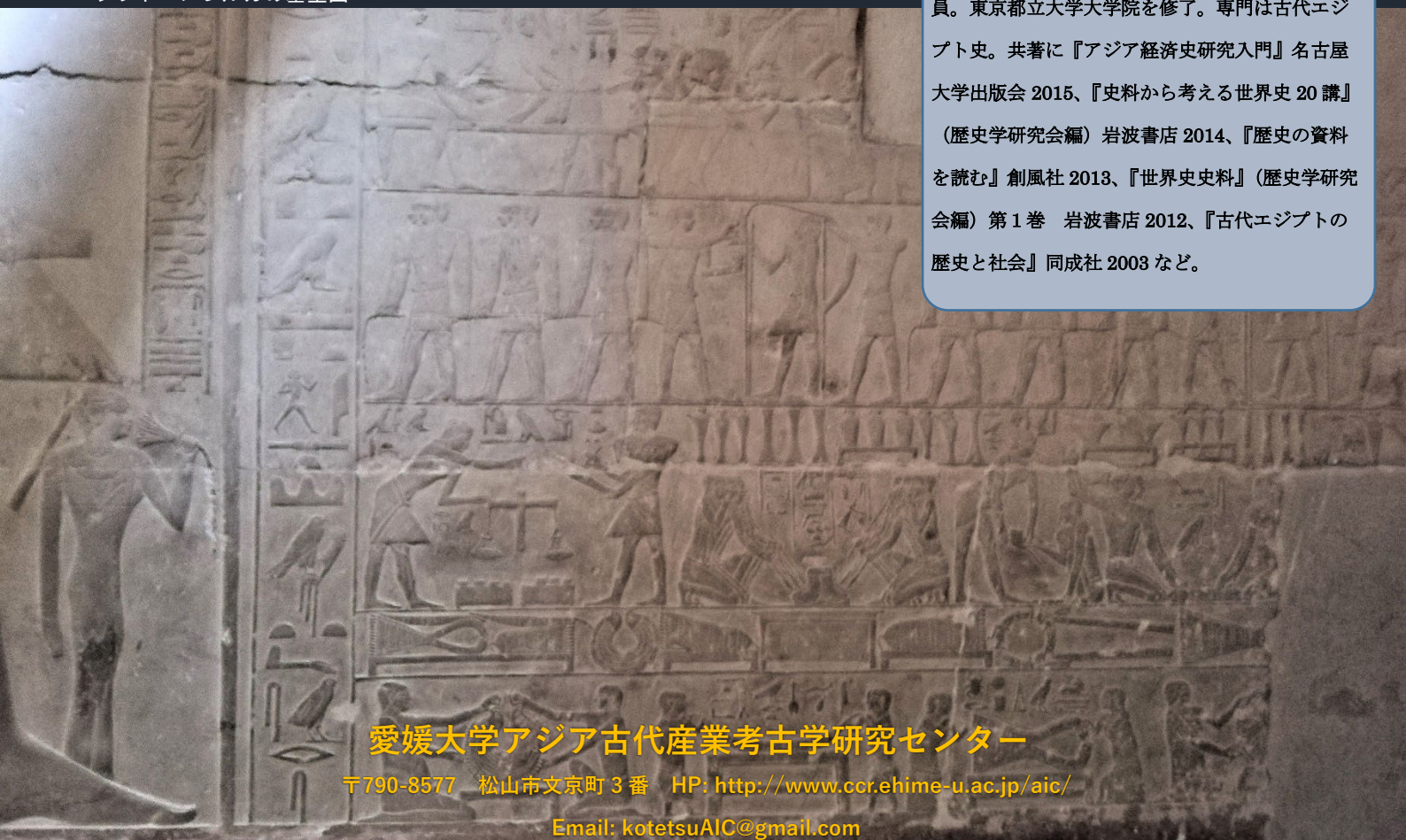
ご覧になれます。



畑守泰子氏プロフィール

愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター研究員。東京都立大学大学院を修了。専門は古代エジプト史。共著に『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会 2015、『史料から考える世界史 20講』（歴史学研究会編）岩波書店 2014、『歴史の資料を読む』創風社 2013、『世界史史料』（歴史学研究会編）第1巻 岩波書店 2012、『古代エジプトの歴史と社会』同成社 2003 など。

エジプト・メレルカの墓壁画



愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター

〒790-8577 松山市文京町3番 HP: <http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/>

Email: kotetsuAIC@gmail.com